

第4期

真狩村子どもたちの読書活動推進計画

(令和2年度～令和6年度)



令和2年3月

真狩村教育委員会

目 次

第1章 計画の基本的な考え方	
1 計画の目的	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の対象	1
4 計画期間	1
第2章 第3期計画の成果と課題	
(1) 具体的な目標	2
(2) 具体的な取組	4
第3章 基本的な方針	5
第4章 具体的な取組	
1 家庭における読書活動の推進	6
2 地域・ボランティアにおける読書活動の推進	7
3 学校等における読書活動の推進	8
4 公民館図書室における読書活動の推進	9
別表1 真狩村子どもたちの読書活動推進委員会の連携体制	10
別表2 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進	11
参考資料① □ 用語解説 □	12
参考資料② 子ども読書アンケート結果（令和元年11月実施）	13
参考資料③	
第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員及び策定協議の経過	23

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画の目的

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

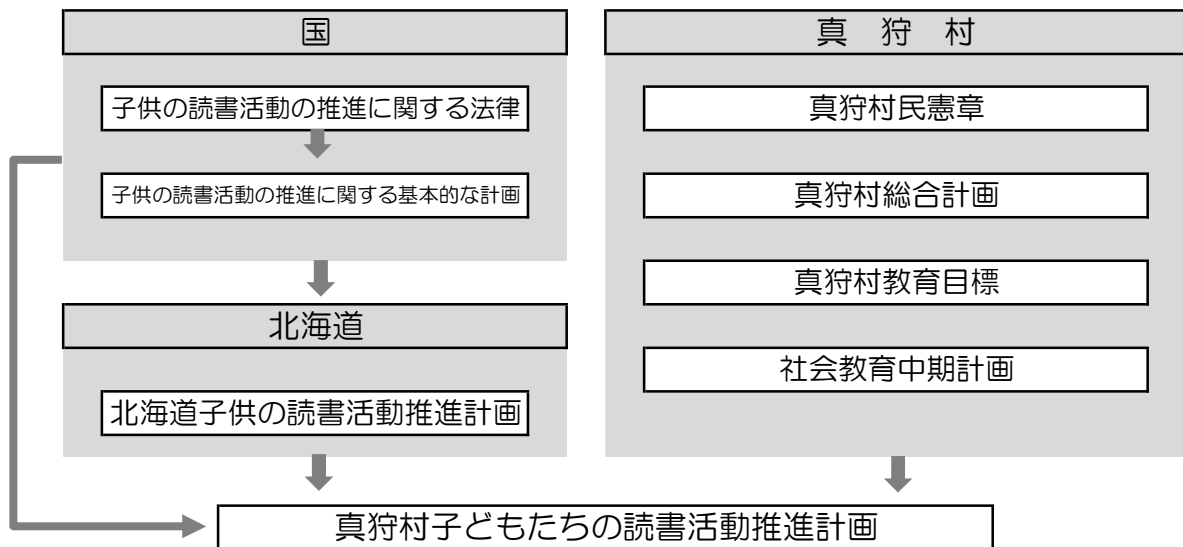
平成13年に、「子どもたちの読書活動の推進に関する法律」が施行され、子どもが自主的に読書活動ができるよう、積極的にその環境の整備を計画的に推進していくとされており、国・北海道においては、「第4次子供たちの読書活動の推進に関する基本的な計画」、「北海道子どもたちの読書活動推進計画〈第四次計画〉」が平成30年に策定されました。

本村でも、国・北海道の動向に基づき、真狩村の子どもたちが自主的に読書活動に取り組めるよう推進し、将来を担う子どもたちの健やかな心を育むことを目指し、平成27年3月に「第3期真狩村子どもたちの読書活動推進計画」（以下、「第3期計画」という。）を策定し、これまで子どもたちの読書活動を推進してきました。

このたび令和元年度をもって、第3期計画の期間が終了するため、第3期計画の成果や課題等を踏まえ、「第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画（以下、「第4期計画」という。）」を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に基づいて策定します。また、本村で策定している「真狩村総合計画」や「真狩村社会教育中期計画」との整合性を図ります。



3 計画の対象

真狩村内の0歳から高校生までの子どもと、子どもに関わる家庭、学校、地域等の村民及びボランティア団体を対象とします。

4 計画期間

令和2年度から令和6年度までの5ヶ年とし、必要に応じて計画の見直しを行います。

第2章 第3期計画の成果と課題

第3期計画では、具体的な目標を設定した中で、事業を実施してきました。また、具体的な取組として、家庭、地域、学校等、公民館図書室それぞれに応じた事業を実施し、相互の連携・協力を推進してきました。

第3期の成果を踏まえ、第4期計画でも引き続き具体的な目標及び具体的な取組を設定し、達成に努めます。

(1) 具体的な目標

① 1ヶ月の平均読書冊数（子ども読書アンケート結果に基づく）

第3期計画での目標及び結果 (冊)

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
第3期目標	15	10	5	5
R1年度	20.8	8	4.3	2.8
H30年度	20.3	7.9	4.2	5.9
H28年度	18.3	10	3.6	3.8

・小学校低学年においては、全ての年度で達成しており、子どもたちの読書に対する関心の高さが伺えます。しかし、小学校高学年から高校生に関しては、達成できなかった年度が多く、学年が上になるにつれて、目標値から遠ざかっている結果となりました。

○参考

「第65回読書調査」（公益社団法人全国学校図書館協議会及び株式会社毎日新聞社）
平均読書冊数（R1年5月）小学生（4～6年生）11.3冊、中学生4.7冊、高校生1.4冊

第4期計画での目標 (冊)

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
目標	20	10	5	5

第4期計画では、小学校低学年を20冊に増やし、小学校高学年以上は、第3期計画と同数値を目標とします。

②1ヶ月に1冊も本を読まない子どもの割合（子ども読書アンケート結果に基づく）

第3期計画での目標及び結果

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
第3期目標	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
R1年度	0.0%	8.0%	5.3%	43.6%
H30年度	0.0%	3.8%	4.0%	33.9%
H28年度	2.0%	0.0%	5.3%	5.6%

・小学生は達成した年度もあり、中学生についても5%程度ですが、高校生の不読率は依然として高い状況にあります。

○参考

「第65回読書調査」（公益社団法人全国学校図書館協議会及び株式会社毎日新聞社）
不読者の割合（R1年5月）小学生（4～6年生）6.8%、中学生12.5%、高校生55.3%

第4期計画での目標

（冊）

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
目標	0%	0%	5%	30%

第4期計画では、小学生を0%とし、中学生5%、高校生30%を目標とします。

③1日に10分以上読書をする割合

第4期計画では、新たに、授業以外の時間にどのくらい読書をしているかを目標に定め、家庭などでも主体的・継続的に読書活動に取り組んでもらえるよう努めます。

○参考（子ども読書アンケート）

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
R1年度	78.6%	74.0%	76.3%	51.5%

第4期計画での目標

	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
目標	80%	80%	80%	60%

第3期計画の成果と課題

(2) 具体的な取組

1 家庭における読書活動の推進

家庭においては、本のアルバムの配付やブックスタートなどを通して、家庭での読書習慣の定着に向けた取組を行いました。平成30年度に実施した保育所・小中学校向けの保護者向けアンケート結果では、「家庭で子どもに本を読んであげたことがありますか？」の問いに対し、「週に数回」が43%、「時々」が46%、「無い・ほぼ無い」が11%と、約半数は「時々」を下回る頻度となりました。また、ブックスタート対象者に内容についてのアンケート調査を行った際には、「別の年齢の時にも本をプレゼントしてほしい」、「物心がつく2～3歳頃にももらえる」と親子で本への親しみや喜びを味わえる」などの回答があり、ブックスタートのみならず、成長段階に応じた読書活動の推進を充実させていくことが必要です。

2 地域における読書活動の推進

ボランティアと協力し、読書まつりや部会ごとのイベントなど、子どもたちに体験を交えながら様々な読書活動の推進に努めました。また、村内に設置しているフリー図書棚を、金融機関や診療所など、10箇所を増やし、いつでもどこでも本に会える環境を整備してきました。そのほか読書推進月間中に本を展示したり、「ブックぶっくブック」の発行など、学校や公民館図書室との連携を図りながら推進を行いました。

今後も、関係機関との連携を充実させ、運営・周知方法等を再検討し、より楽しく本に親しんでもらえるような取組を継続していく必要があります。

3 学校等における読書活動の推進

保育所や小学校では、各機関での日常的な読書活動に加え、長期休業前での大量貸し出しや、イベントの開催、小学校へ授業で活用する並行読書の貸出などを行い、本に出会い、親しむ機会の提供に努めました。また、放課後児童クラブとも連携を図り、日常的な読み聞かせや定期的な本の貸し出しなど、読書環境の充実にも努めました。そのほかにも、子育て支援センターで親子向けのイベントや、中学生へのブックトーク、高校生へのオリエンテーションを行うなど、子どもの成長に合せた事業を展開してきました。

今後も、子どもたちが深く生きる力を身に付けていく上で、読書活動は欠かせないものであり、継続して各機関と協力・連携し、事業を推進していく必要があります。

4 公民館図書室における読書活動の推進

公民館図書室では、話題の本を展示したり、利用者が読みたくなるような本の購入、カバーの張替えや修繕など、立ち寄りやすく、手に取りやすい図書室づくりを目指しました。また、道立図書館からの大量借受や他図書館からの相互貸借により、読みたい本を継続的に提供したほか、各機関への出張貸出なども行い、公民館図書室を拠点として各機関と連携しながら推進を図りました。

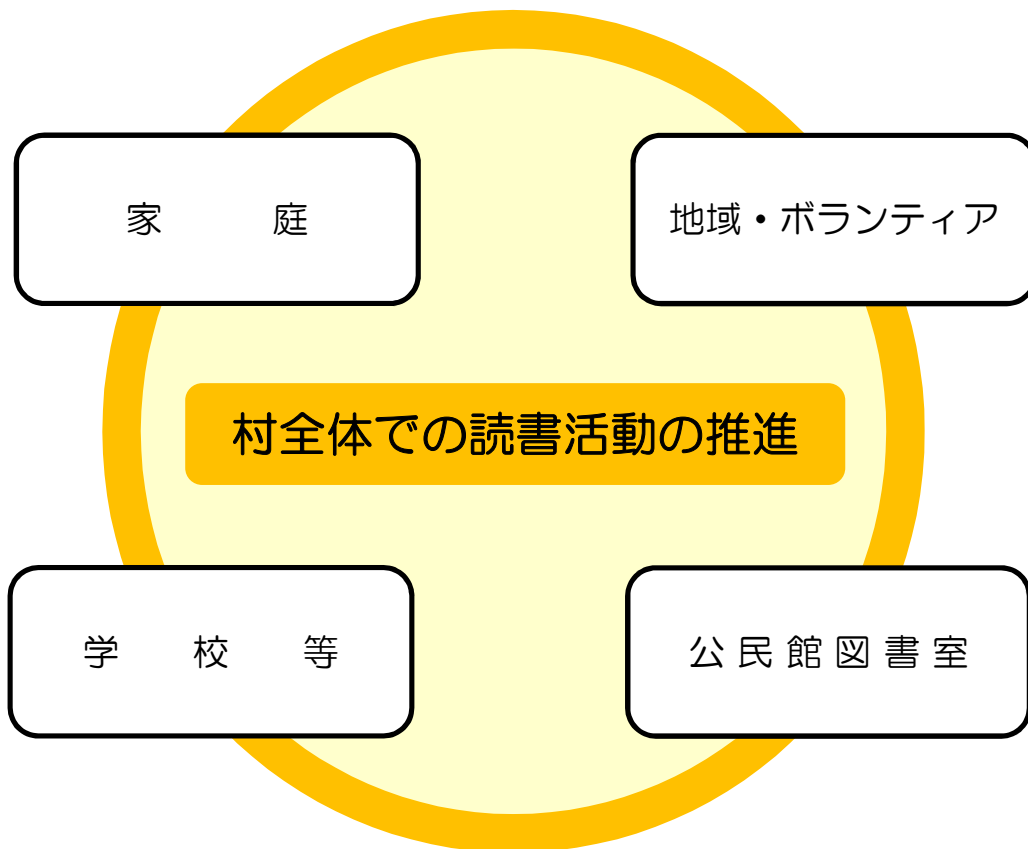
保護者向けアンケート結果では、「1年間に公民館図書室で本を借りたことがあるか」の問いに対し、「ある」が46%、「ない」が42%と、半数近くが借りていない結果となり、多くの人が利用しやすくなるような図書室の整備が必要です。

第3章 基本的な方針

子どもの読書習慣を定着させ、主体的な読書活動を推進していくためには、家庭、地域、ボランティア、学校、公民館図書室など、村全体で取組を進める必要があります。そのためには、それぞれの役割を明確にした中で、関係機関や団体等と連携し、相互に協力しながら、子どもの発達段階に応じた多様な取組を進めていくことが重要です。

基本的な方針

1. 家庭における読書活動の推進
2. 地域・ボランティアにおける読書活動の推進
3. 学校等における読書活動の推進
4. 公民館図書室における読書活動の推進



第4章 具体的な取組

1. 家庭における読書活動の推進

子どもが読書に親しむには、乳幼児期から家庭の中で読書を楽しむ経験が必要不可欠であり、家族と一緒に本に親しんでもらえるような取組の推進が望まれます。また、子どもだけでなく保護者においても、読書活動の重要性の理解を深めてもらう必要があります。

本村では、ブックスタート[□]による配本や、本のアルバム[□]配付などによって家庭での読書活動を推進してきました。今後も、ブックスタート対象となる乳児から、切れ目なく事業を実施していくため、ブックスタートのフォローアップとした、3歳児向けの「ブックスタートプラス」を新たに加え、より継続的な取組に努めます。また、本のアルバムについても、利用の少ない小学校高学年や中高生、大人にも取り組んでもらえるよう内容を工夫し、さらなる利用促進に努めます。

推進項目	具体的な内容
① 家庭・保護者への啓発	各イベントや真狩村読書推進月間、公民館図書室内などにおいて、読書活動の取組の紹介や読書の意義、重要性について啓発し、家庭や地域での読書の習慣づくりを推奨する。
② ブックスタートの実施	乳児への読書推進のため、10ヶ月健診の際に絵本の配本及び読み聞かせを行うことにより、乳児と保護者に絵本の楽しさを知ってもらい、親子で本に親しむきっかけづくりを行う。
③ ブックスタートプラスの実施	3歳児健診の際に絵本の配本を行い、ことばや心が大きく育っていく幼児期に実施することで、本をより楽しみ、これからも好きになってもらえるよう努める。
④ 本のアルバム配付	子ども読書の日 [□] （小学校1年生対象）の際や、ブックスタートの際に本のアルバムを配付し、家庭での読書推進を図る。また、本のアルバム達成者によるおすすめ本の展示などを行う。

※ □ 「ブックスタート」、「本のアルバム」、「子ども読書の日」 ～ P.12 用語解説 参照



ブックスタート



本のアルバム

2. 地域・ボランティアにおける読書活動の推進

家庭や学校のみならず、あらゆる機会、あらゆる場所において本に関わることができるよう読書活動を推進していく必要があります。

おすすめの本を紹介した便り「ブックぶっくブック」を広く周知し、本を読みたいと思えたり、新しい本と出会うきっかけづくりに努めます。また、フリー図書棚[□]を村内各所に継続して設置し、いつでもどこでも本に親しめる環境を整備します。

関係機関やボランティア団体に対しては、継続して支援や連携を図り、読書活動がより楽しく、身近に感じてもらえるよう取組を推進します。また、例年開催している「読書まつり」[□]の実施などを通して、地域が一体となった取組を今後も展開していきます。

推進項目	具体的な内容
① 「ブックぶっくブック」の発行	小学校低学年、小学校高学年、中高生向けにそれぞれ推薦図書を紹介し、読書に関する興味が薄れる年代にも本を読むきっかけとなるよう、便りを発行する。
② フリー図書棚の運営	各事業所などに設置し、家庭から持ち寄った本を自由に利用できることにより、いつでもどこでも本に親しめる環境を整備する。また、定期的に本の入替を実施する。
③ 読み聞かせの推進及び実施	子育て支援センター、保育所、学校、放課後児童クラブ、住民課、公民館図書室等、関係機関と連携しながら読み聞かせを推進する。また、地域ボランティアによる朝の読み聞かせなどの支援を行う。
④ 真狩村読書推進月間の取組	約1ヶ月間、本村の読書推進月間を設定し、本の展示などを通して、子どもたちや地域住民が本に触れる機会を提供し、読書に対する理解を深める。
⑤ 読書まつりやミニイベントの実施	公民館図書室への親しみや、本を楽しむ機会を持つことにより、気軽に行ける図書室や読書の習慣を身につけるきっかけづくりとして、読書推進月間期間中に読書まつりや、ミニイベントを開催する。

※ □ 「フリー図書棚」、「読書まつり」 ～ P.12 用語解説 参照



フリー図書棚



読書推進月間による展示



読書まつり

3. 学校等における読書活動の推進

保育所や学校では、子どもの発達段階に応じた読書活動を体験することができ、読書習慣づくりのための大きな推進力となるため、支援・協力が必要となります。

公民館図書や、道立図書館などから借受した本は、定期的に各施設に配本し、より充実した読書環境の整備に努めます。また、小学校の授業等に必要とされる本の貸出を行うなど、相互に連携を図り、効果的な活用を推進します。

また、ブックトーク□などを交えながら、読書に興味を薄れがちな中高生にも働きかけ、幅広い世代において読書活動を推進していきます。

推 進 項 目	具 体 的 な 内 容
① 移動図書の実施	子育て支援センター、小学校、放課後児童クラブ等へ定期的に児童書などを配本し、より充実した読書環境づくりを行う。
② 調べもの学習・並行読書の充実	学校における各教科や総合的な学習の時間等において、学校図書室や公民館図書室の利用促進を図り、学習における効果的活用を推進する。
③ ブックトークの実施	ひとつのテーマに沿って数冊の本を順序良く紹介し、それぞれの本の面白さを伝えることにより、読書に対する興味を引き起こす。
④ オリエンテーションの実施	図書室の利用方法などを説明し、読書離れが進む世代においても、身近に利用できる環境づくりに努める。
⑤ 世代に合わせた継続的な読書活動の推進	各機関との連携を密にし、それぞれで実施している読書活動をさらに推進する。また、読み聞かせやおはなし会などのイベントを開催し、全ての世代に対し継続的に推進を図っていく。

※ □ 「ブックトーク」 ～ P.12 用語解説 参照



移動図書



ブックトーク



オリエンテーション

4. 公民館図書室における読書活動の推進

村の読書活動の主となる公民館図書室は、乳幼児期から子どもに対しての読書環境づくりをしていくためにも、図書の貸出のみならず、利用しやすい図書室の環境づくりや関係機関との連携、ボランティアの人材育成など、大きな役割が求められています。

今後も、各機関と連携を図り、イベント開催のほか、ビブリオバトル[□]やアニマシオン[□]など、気軽に楽しめる読書活動にも取り組みます。また、研修会等への参加や、アンケート実施による現状の把握、図書室の展示方法の検討などによって、今後も保護者や子どもたちが使いたくなるような図書室を目指します。

推 進 項 目	具 体 的 な 内 容
① 研修会への参加及び実施	図書館協議会等主催の研修会に参加し、スキルアップを図る。また、先進地等の施設、読書活動等を視察し、今後における活動に役立てる。(令和5年度に管外の先進地への視察)
② 北海道立図書館大量借受の実施	北海道立図書館から本を借り、公民館図書室の蔵書の充実を図るとともに、学校等への貸出を行う。
③ 子ども読書アンケートの実施	子どもの読書の状況を把握するとともに、今後における読書活動の推進を図るための計画づくりに役立てる。(令和3・5年度実施)
④ 公民館図書室の整備	図書の購入や、道立図書館等からの借受を行い、本について関心を深めてもらえるよう努める。また、公民館図書室が、利用しやすい環境となるよう、今後も整備を行う。
⑤ 司書の配置	公民館図書室に専門的知識を有する司書を配置し、各関係機関・ボランティアとの連携を強化し、村全体の読書環境整備を推進する。

※ □ 「ビブリオバトル」、「アニマシオン」 ～ P.12 用語解説 参照



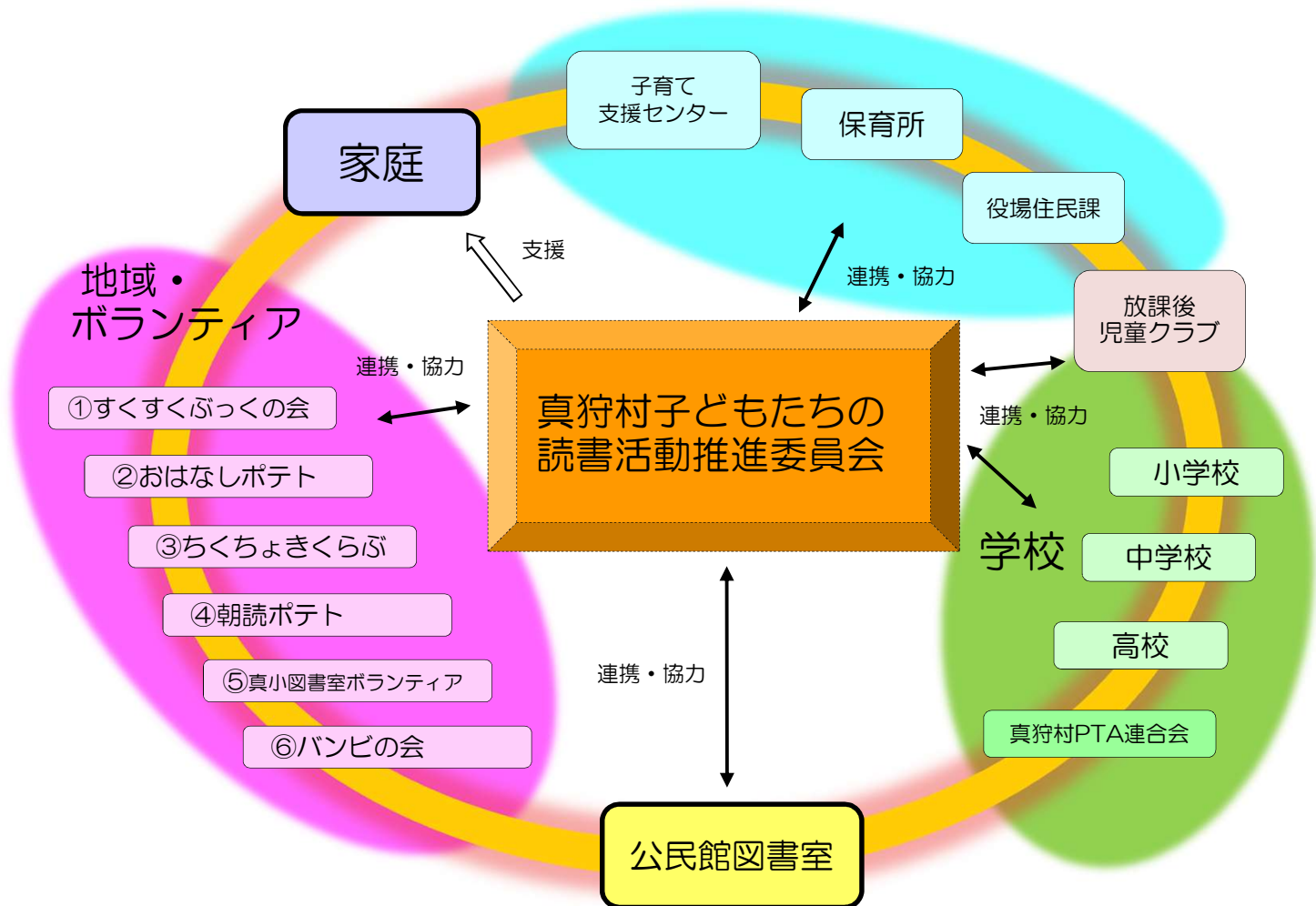
研修会への参加



公民館図書室

○別表1 真狩村子どもたちの読書活動推進委員会の連携体制

子どもの読書活動に関わる機関や団体と、相互に連携協力を図り、取組を推進します。



●地域・ボランティア団体の概要

①すくすくぶっくの会

ブックスタート事業において、対象者への絵本の読み聞かせや、ブックスタート配本図書の選考など行う。

②おはなしポテト

読書まつりなどのイベントや、小学校などを中心におはなし会を行っており、子どもたちが楽しめるさまざまな内容を企画している。

③ちくちょきくらぶ

公民館図書室や、子育て支援センターなどにおいて、季節やテーマに応じた展示物（フェルトや布雑貨、切り紙等）の制作、展示のほか、布絵本の制作なども行っている。

④朝読ポテト

おはなしポテトや村民が協力し、朝の授業前に小学校図書室において、定期的に絵本の読み聞かせを行う。

⑤真小図書室ボランティア

真狩小の学校図書室が使いやすくなるよう、本の展示や季節などに応じた図書室の飾りつけ、学校図書室の保護フィルム貼付などを行っている。

⑥バンビの会

子育てをする親子が定期的集まり、赤ちゃん同士の関わりを持ったり、お母さんたちのリフレッシュができるよう、講座やイベントの開催、絵本の読み聞かせなどを行っている。

○別表2 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

発達段階 取組	乳幼児	小学生	中学生	高校生
家庭	家庭・保護者への啓発			
	ブックスタート			
	ブックスタートプラス			
	本のアルバム配付 (ブックスタート及び新一年生)		本のアルバム配付 (希望者)	
地域・ ボランティア	「ブックぶっくブック」の発行			
	フリー図書棚の運営			
	読み聞かせの推進及び実施			
	真狩村読書推進月間の取組			
	読書まつりやミニイベントの実施			
学校等	移動図書の実施			
		調べもの学習・並行読書		
			ブックトーク	
				オリエンテーション
	世代に合わせた継続的な読書活動の推進			
公民館図書室	研修会への参加及び実施			
	北海道立図書館大量借受の実施			
	子ども読書アンケートの実施			
	公民館図書室の整備			
	司書の配置			

参考資料① 用語解説

本のアルバム

読んだ本を記録するための小冊子。読み終えた日付やタイトル、感想などを明記して、50冊を達成すると図書カード500円分をプレゼントしている。

ブックスタート

住民課で実施する乳児健康診査等の際に、生後10ヶ月前後の子どもと保護者に絵本をプレゼントし、家庭での絵本の読み聞かせを通じて、赤ちゃんといれあうきっかけづくりとするもの。

子ども読書の日

4月23日は「子ども読書の日」としており、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を高めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）によって制定されたもの。

フリー図書棚

家庭などから持ち寄った本を自由に置いたり、借りたりできるもので、村内に10カ所設置している。（公民館・役場・交流プラザ・保健福祉センター・まっかり温泉・美原種苗管理センター、真狩郵便局、ようてい農協金融窓口、野の花診療所、コスモ調剤薬局）

読書まつり

例年11月に公民館で実施しているイベントで、本を借りることで、クイズや工作などの体験ができたり、わたあめが食べられるなどの特典がある。また、おはなし会をはじめ、本のアルバム達成者の表彰や、パフォーマーによるショーなども行っている一大イベント。

ブックトーク

読書意欲を喚起したり、学習への活用を勧めるために、特定のテーマに沿った複数の本について、あらすじを説明したり、一部分を朗読したり、挿絵を見せたりするなどして紹介する活動。

ビブリオバトル

読んで面白いと思った本について、一人5分でその本の概要や魅力を紹介した後、どの本を読みたくなったかを投票で決める活動。

アニマシオン

子どもたちに本を読む楽しさを伝えたり、本を読む力を引き出すための、参加型の読書活動。わざと間違えて本を読み聞かせて、その間違いを見つけたり、あらすじをクイズとして出題するなど、さまざまな手法がある。

参考資料② 子ども読書アンケート結果（令和元年11月実施）

本アンケートは、子どもの読書活動の状況調査を行い読書活動の日常化を推進するものです。また、「真狩村子どもたちの読書活動推進委員会」等の会議において、本アンケート結果を活用し今後の真狩村の読書活動の推進を図ってまいります。

※小学1～3年生を「低学年」、4～6年生を「高学年」として集計しています。

1、あなたの学校は？

真狩小	83名
御保内小	9名
真狩中	38名
真狩高	101名
合計	231名

2、あなたの学年は？

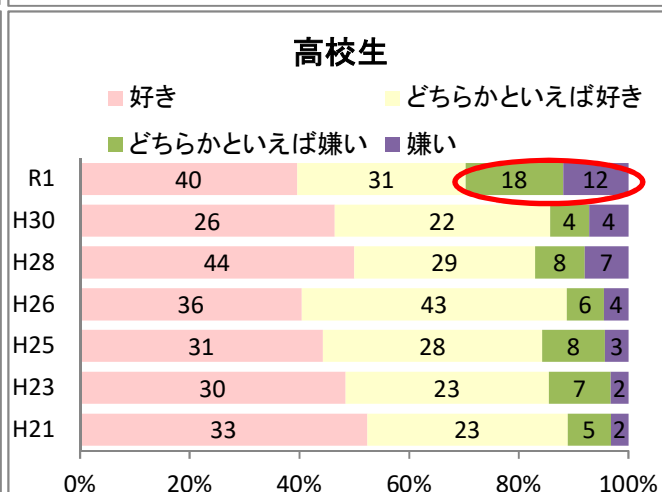
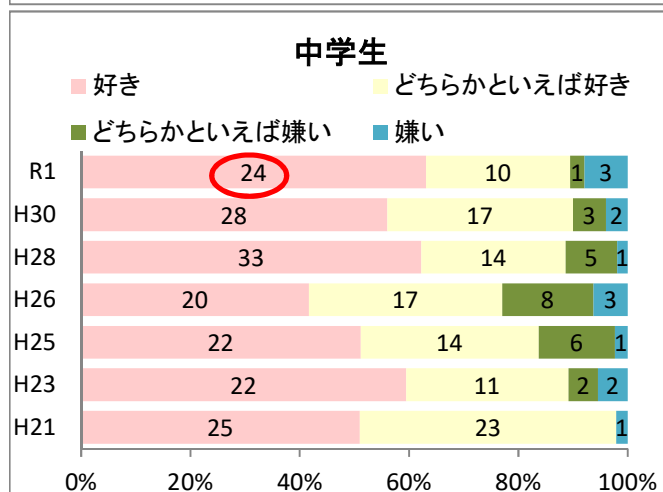
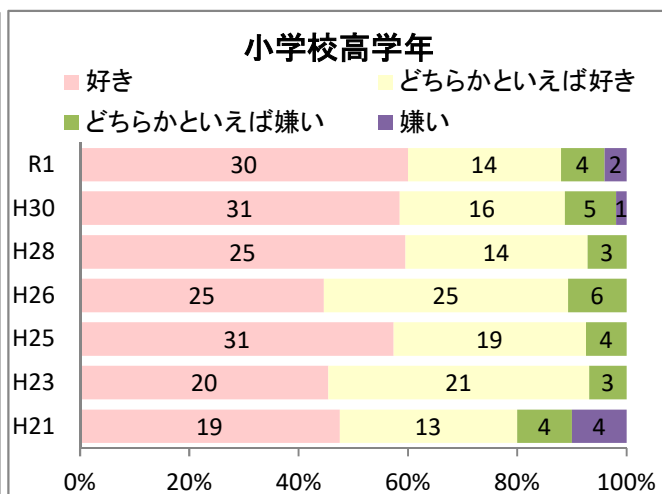
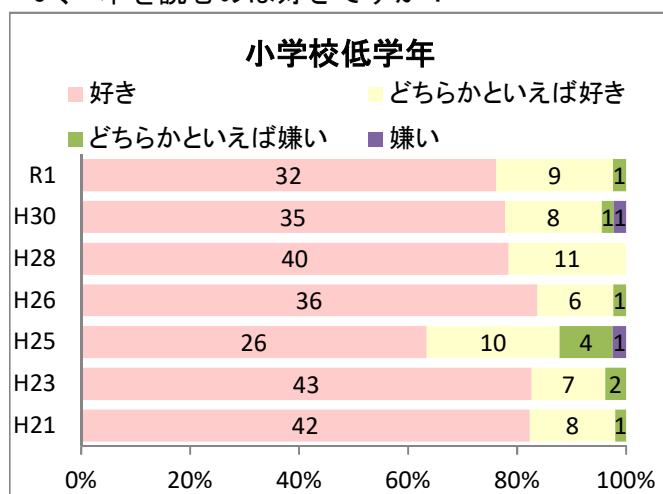
小学1年生	14名
小学2年生	15名
小学3年生	13名
小学4年生	14名
小学5年生	21名
小学6年生	15名

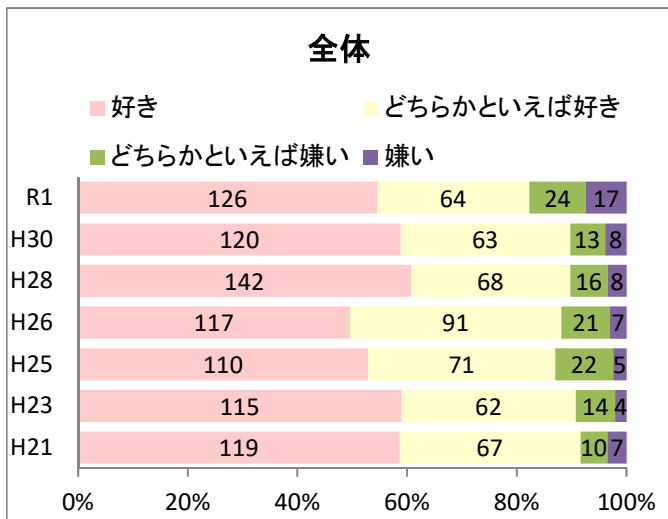
中学1年生	11名
中学2年生	11名
中学3年生	16名
高校1年生	36名
高校2年生	39名
高校3年生	26名

低学年	42名
高学年	50名
小学生計	92名

中学生	38名
高校生	101名
合計	231名

3、本を読むのは好きですか？



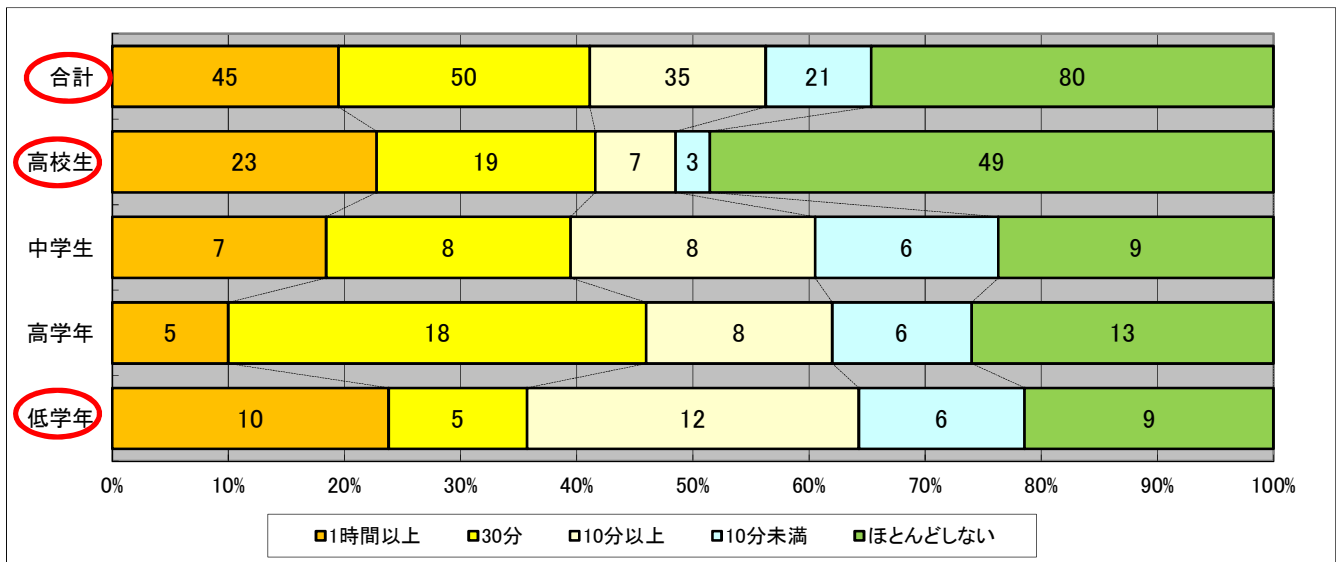


【コメント】

小学生に関しては、大きな変化は見られませんが、中学生が「好き」の割合が多くなっています。反対に高校生は「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」の割合が増加しており読書に抵抗を感じているようです。

今後も、子どもの発達の段階に応じた読書活動を継続的に推進し、大きくなっても読書に親んでもらえるよう、普及・啓発をしていく必要があります。

4、学校以外で1日どれぐらい読書しますか？



【コメント】

「10分以上」と回答した方が約6割います。小学生は8割程度が読書をしている結果となっていますが、高校生は5割近くの方が読書をしておらず、大きくなるにつれ読書離れが進んでいる現状もあります。

北海道教育委員会では読書をする時間を「まずは1日10分以上」と読書習慣の定着をすすめています。

参考資料（令和元年度全国学力・学習状況調査結果）

	1時間以上	30分以上	30分未満	まったくしない
小学生	18.4%	21.6%	41.4%	18.6%
中学生	12.5%	14.6%	38.2%	34.7%

5、本を読むのはどうしてですか？（複数回答可）

■低学年	H28	H30	R1
1位	おもしろい 80%	おもしろい 93%	おもしろい 86%
2位	本のアルバム 33%	ためになる 31%	ためになる 24%
3位	ためになる 27%	本のアルバム 27%	調べ物をする 19%
4位	調べ物をする 24%	調べ物をする 22%	本のアルバム 19%
5位	ほめられる 4%	親や先生がすすめる 8%	

■高学年	H28		H30		R1	
1位	おもしろい	79 %	おもしろい	79 %	おもしろい	85 %
2位	ためになる	33 %	ためになる	19 %	ためになる	26 %
3位	調べ物をする	19 %	調べ物をする	15 %	調べ物をする	13 %
4位	本のアルバム	12 %	親や先生がすすめる	9 %	その他	11 %
5位	友達を読む	7 %			本のアルバム	4 %

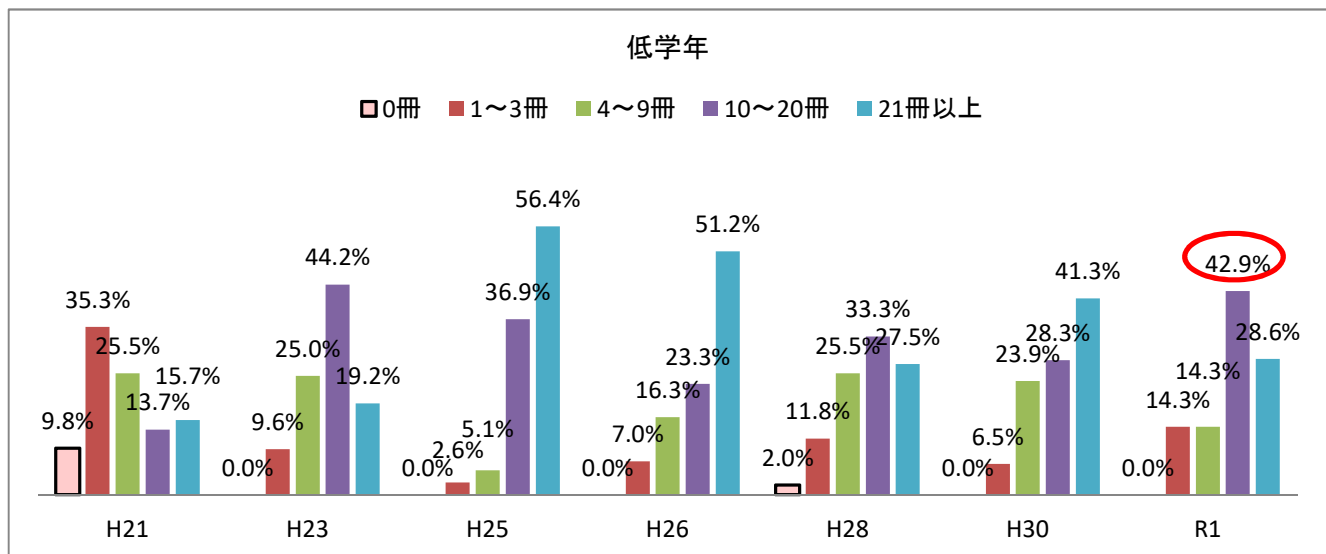
■中学生	H28		H30		R1	
1位	おもしろい	82 %	おもしろい	69 %	おもしろい	87 %
2位	ためになる	23 %	ためになる	50 %	ためになる	21 %
3位	調べ物をする	14 %	親や先生がすすめる	15 %	調べ物をする	8 %
4位	親や先生がすすめる	5 %	調べ物をする	13 %	親や先生がすすめる	8 %
5位			友達を読む	4 %	友達を読む	3 %

■高校生	H28		H30		R1	
1位	おもしろい	80 %	おもしろい	79 %	おもしろい	70 %
2位	ためになる	11 %	ためになる	16 %	ためになる	28 %
3位	調べ物をする	7 %	調べ物をする	14 %	調べ物をする	13 %
4位	親や先生がすすめる	2 %	友達を読む	1 %	その他	9 %
5位	その他	2 %	親や先生がすすめる	1 %	親や先生がすすめる	2 %
					本のアルバム	2 %

【コメント】

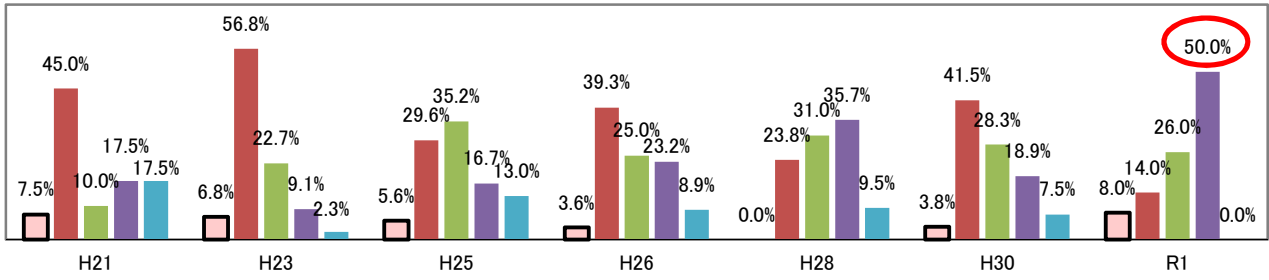
全ての世代で、「おもしろいから」が1位で、本の内容に面白さを感じて読書に取り組んでいると伺えます。次いで、「ためになるから」「調べ物をする」となっており、自分の知識としたり、学習の際に活用されていると考えます。低学年については、「本のアルバムをやるのが楽しいから」が上位に入っています。

6、先月（令和元年10月）一ヶ月に、マンガ以外で何冊本を読みましたか？



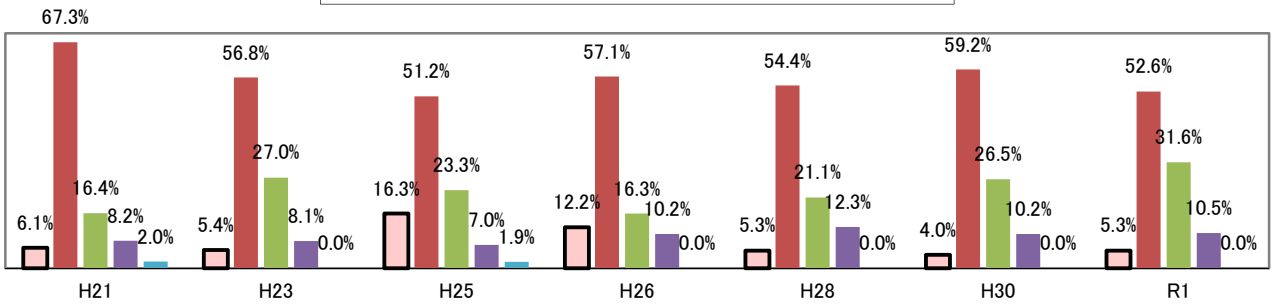
高学年

□0冊 ■1~3冊 ▲4~9冊 ▼10~20冊 ◆21冊以上



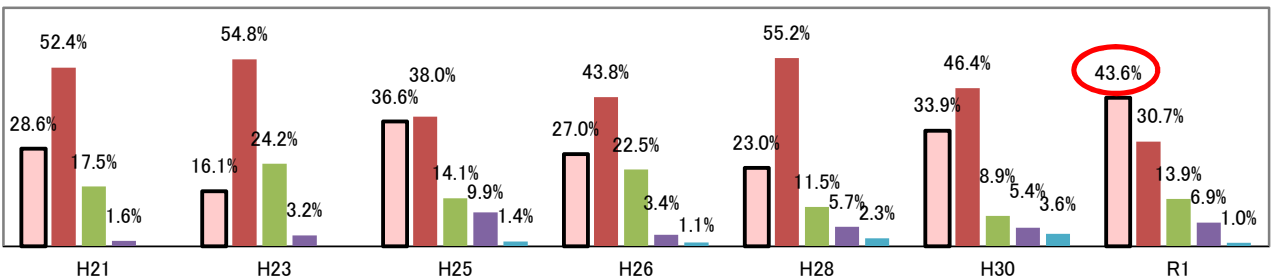
中学生

□0冊 ■1~3冊 ▲4~9冊 ▼10~20冊 ◆21冊以上



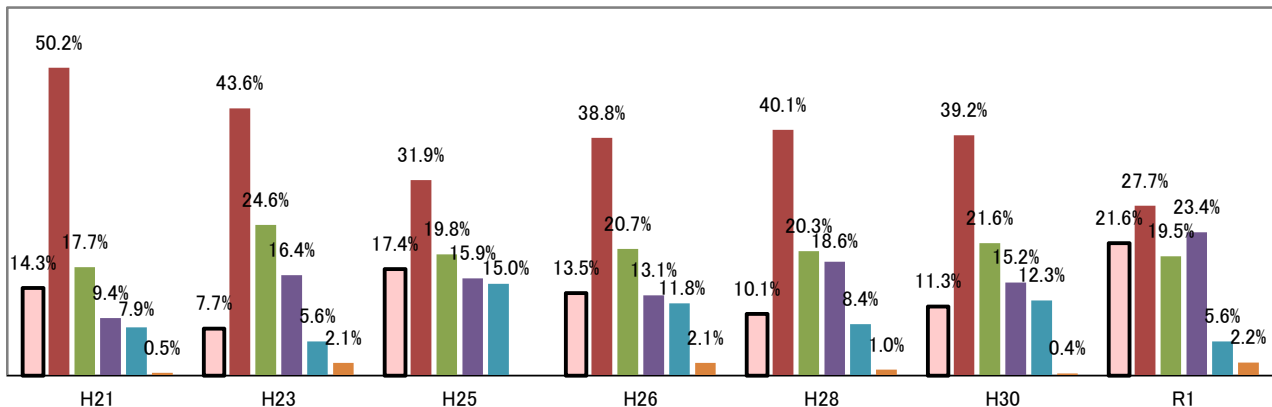
高校生

□0冊 ■1~3冊 ▲4~9冊 ▼10~20冊 ◆21冊以上



合計

□0冊 ■1~3冊 ▲4~9冊 ▼10~20冊 ◆21冊以上 ■未回答



【コメント】

低学年は、21冊以上の割合が減った分、10～20冊が4割近くと一番多くなりました。
 高学年では、10冊～20冊が5割ほどに増加しましたが、21冊以上はいませんでした。
 高校生は、0冊の割合が約4割に増加し、読書離れが顕著となりました。

◎平均読書冊数

	H21	H23	H25	H26	H28	H30	R1
低学年	7.5 冊	15.6 冊	24.8 冊	32.5 冊	18.3 冊	20.3 冊	↑ 20.8 冊
高学年	8.0 冊	4.7 冊	8.6 冊	7.3 冊	10.0 冊	7.9 冊	↑ 8.0 冊
中学生	4.0 冊	4.3 冊	4.9 冊	3.4 冊	3.6 冊	4.2 冊	↑ 4.3 冊
高校生	2.2 冊	3.1 冊	3.0 冊	3.0 冊	3.8 冊	5.9 冊	↓ 2.8 冊

※ 1～3冊は2冊、4～6冊は5冊、7～9冊は8冊、10～20冊は15冊、21冊以上は21冊として計算し人数で割って積算（H21）
 1～3冊は2冊、4～6冊は5冊、7～9冊は8冊、10～20冊は15冊、21冊以上は本人が記入した冊数を足して人数で割って積算（H23）
 本人が記入した冊数を人数で割った数字で積算（H25）（H26）（H28）（H30）（R1）

参考：平均読書冊数 小学生（4～6年生）11.3冊、中学生4.7冊、高校生1.4冊
 不読者（0冊）の割合 小学生6.8%、中学生12.5%、高校生55.3%（第65回読書調査）

7、どんな本を読みましたか？（1冊以上と答えた方のみ回答：複数回答可）

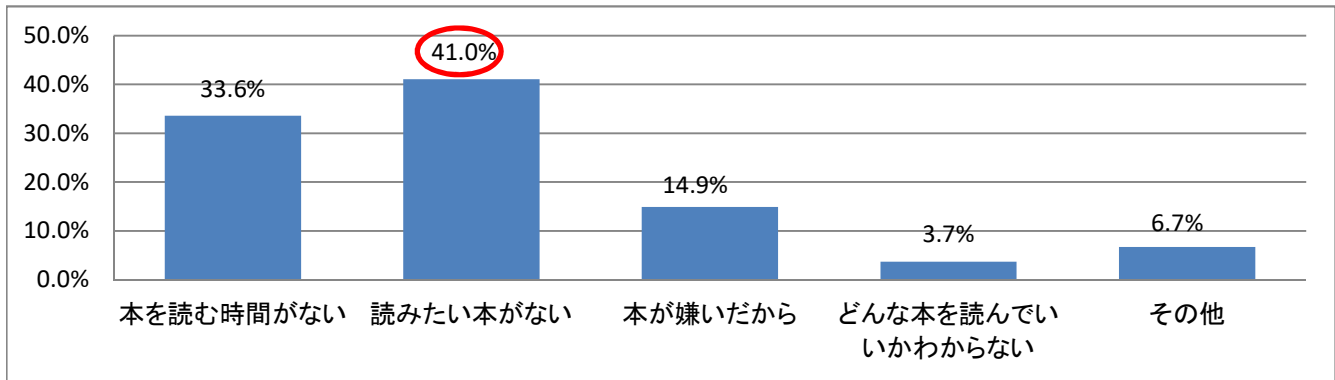
■低学年	H28	H30	R1
1位	児童書 35 票	児童書 43 票	児童書 38 票
2位	趣味やスポーツ 25 票	歴史 17 票	料理 9 票
3位	歴史 17 票	伝記 17 票	歴史 7 票
4位	小説 13 票	小説 11 票	小説 5 票
5位	芸能人の本 10 票	趣味やスポーツ 9 票	趣味やスポーツ 4 票

■高学年	H28	H30	R1
1位	小説 28 票	小説 29 票	小説 29 票
2位	趣味やスポーツ 21 票	児童書 20 票	歴史 16 票
3位	歴史 17 票	伝記 16 票	児童書 14 票
4位	伝記 14 票	趣味やスポーツ 13 票	伝記 12 票
5位	児童書 13 票	歴史 11 票	趣味やスポーツ 9 票

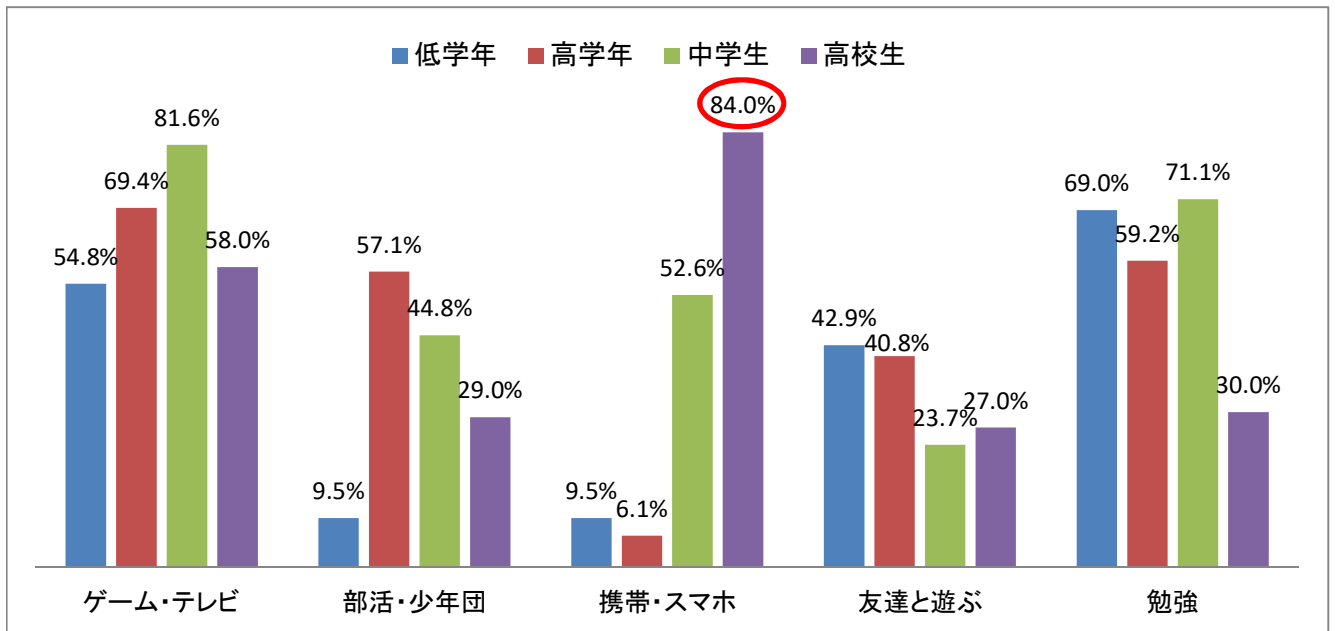
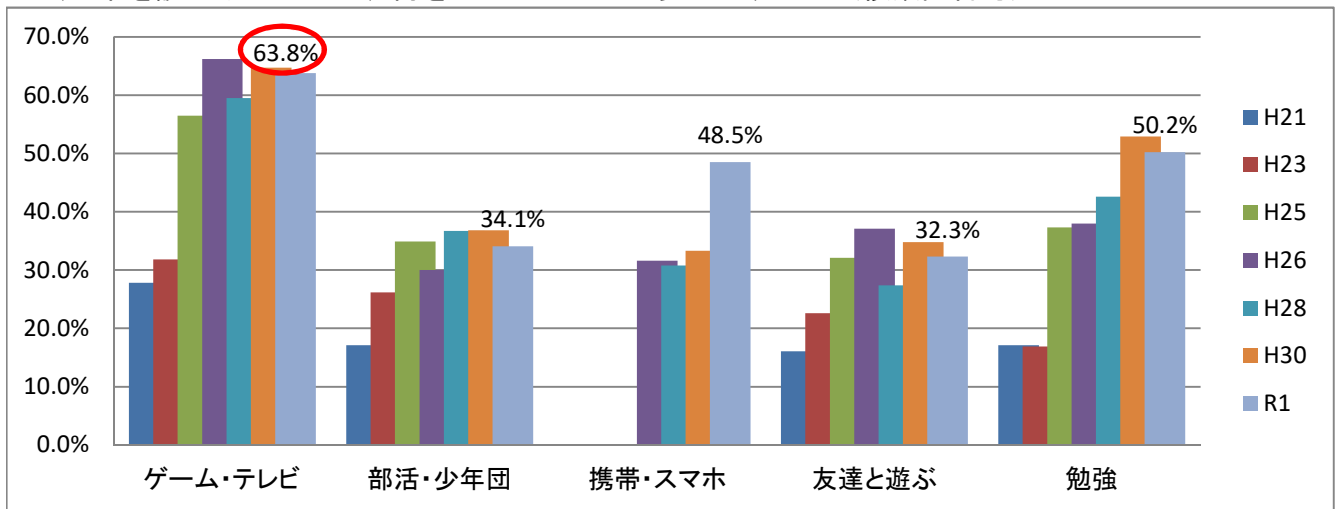
■中学生	H28	H30	R1
1位	小説 44 票	小説 39 票	小説 29 票
2位	趣味やスポーツ 8 票	歴史 10 票	趣味やスポーツ 7 票
3位	伝記 6 票	趣味やスポーツ 9 票	芸能人の書いた本 6 票
4位	歴史 5 票	伝記 5 票	歴史 4 票
5位	ドキュメンタリー 3 票	芸能人の書いた本 4 票	料理 2 票

■高校生	H28	H30	R1
1位	小説 47 票	小説 33 票	小説 43 票
2位	趣味やスポーツ 12 票	趣味やスポーツ 6 票	趣味やスポーツ 11 票
3位	児童書 2 票	ビジネス本 3 票	ビジネス 6 票
4位	歴史 2 票	歴史 2 票	料理 5 票
5位	伝記 2 票	その他 2 票	歴史 3 票

8、本をあまり読まなかったのはなぜですか？（複数回答可）



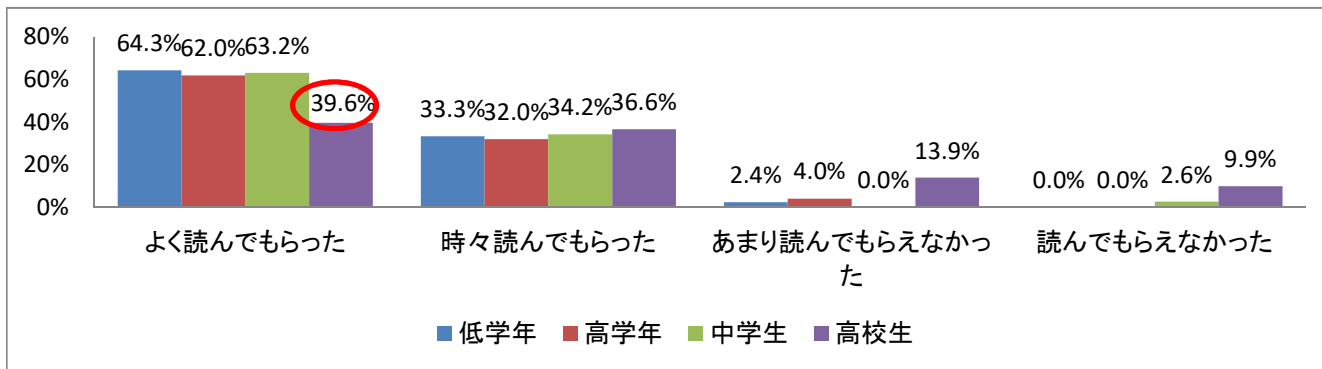
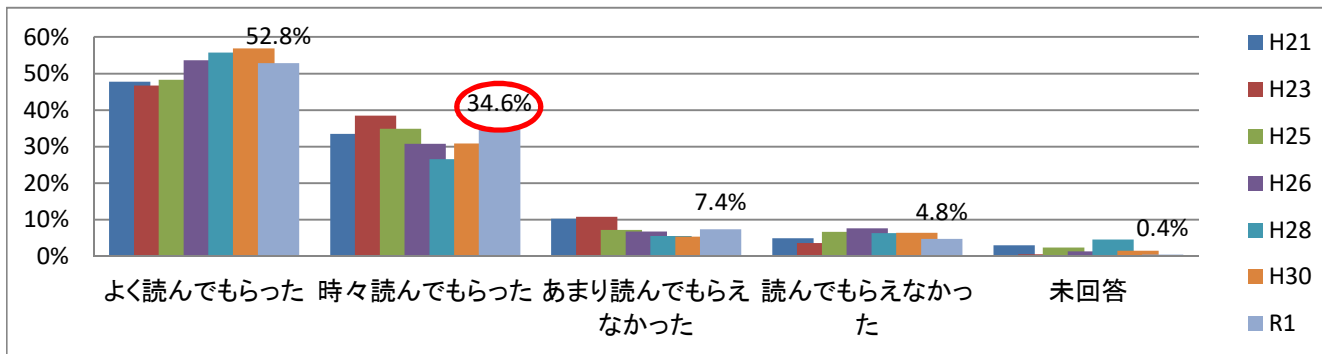
9、本を読まないときは、何をしていることが多いですか？（複数回答可）



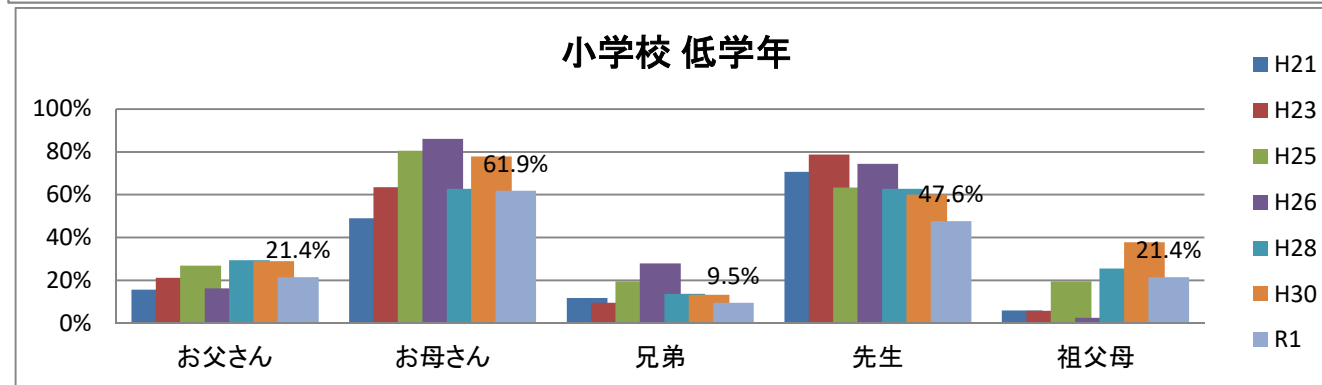
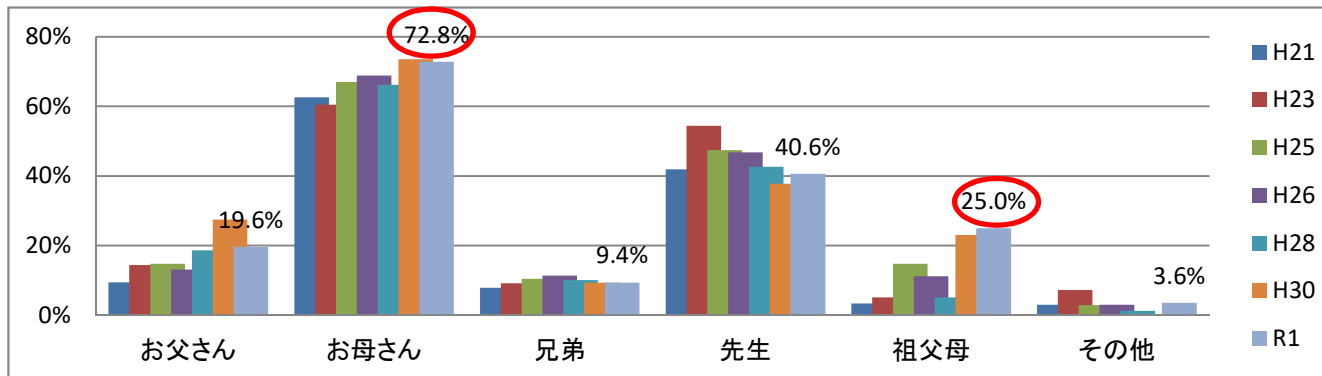
【コメント】

本を読まなかった理由としては、「読みたい本がない」に続いて、「本を読む時間がない」が大きな割合を占め、なかなか本に興味を持っていない結果となりました。また、本を読まない時には、ゲーム・テレビの時間が多く、また、高校生の携帯・スマホの利用は依然として高い割合となっています。

10、小さいときに周りの人に本を読んでもらいましたか？



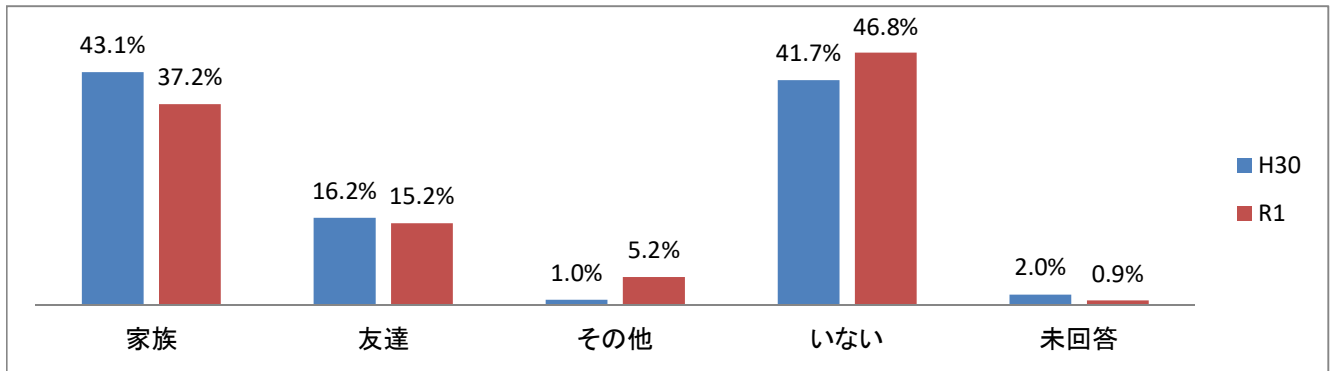
11、誰に読んでもらいましたか？（複数回答可）



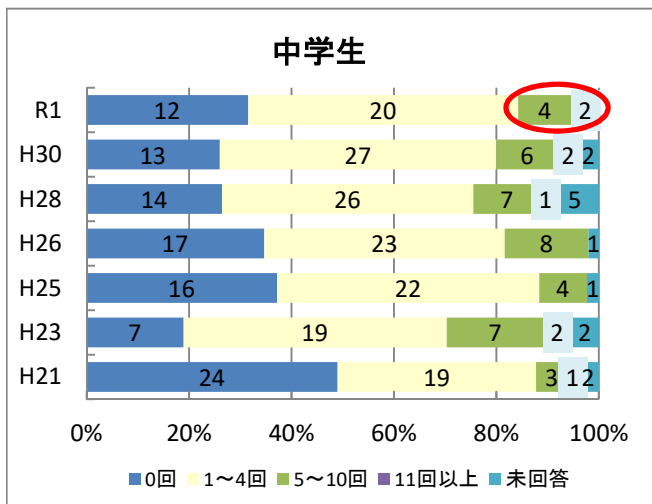
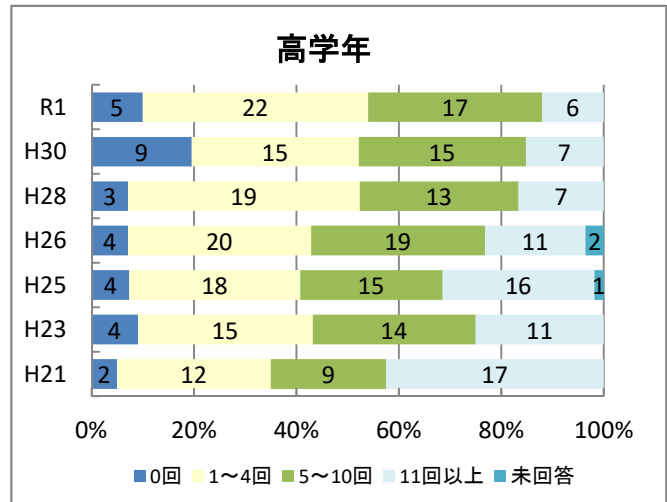
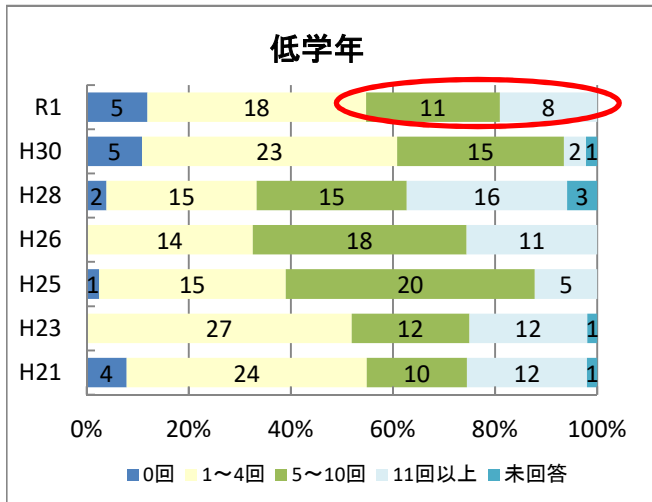
【コメント】

問10では、小さいときに本を「よく読んでもらった」割合が減少し、「時々読んでもらった」割合が高くなっており、世代ごとに見ると、高校生の「よく読んでもらった」が他の世代と比較して4割程度と低くなっていることが要因と考えられます。問11では、読み手が「お母さん」の割合が高く、次いで「先生」となっており、最近では「祖父母」の割合も高くなっている傾向があります。

12、本を読んであげるとしたら、誰に読んであげたいですか？（複数回答可）



13、先月（令和元10月）の一ヶ月間で学校の図書室に何回行きましたか。（小中学生）



【コメント】

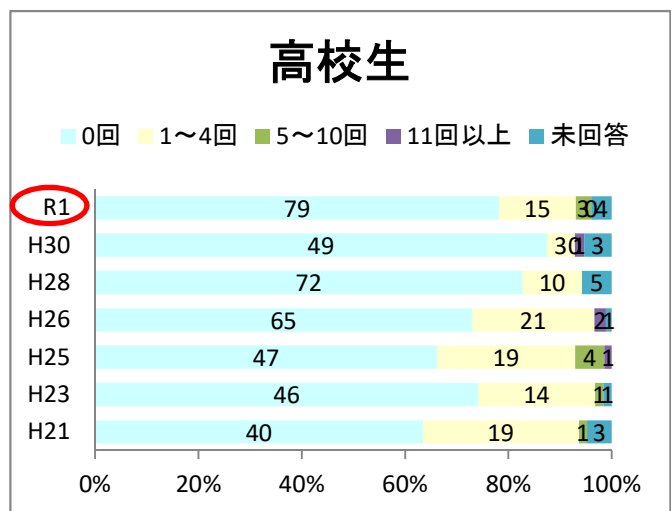
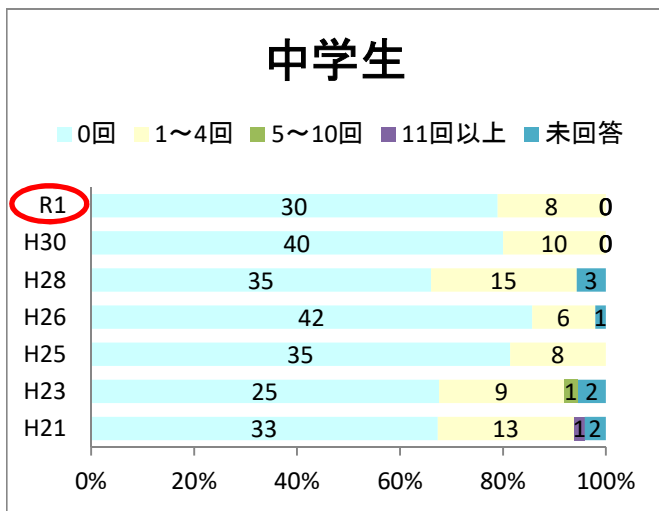
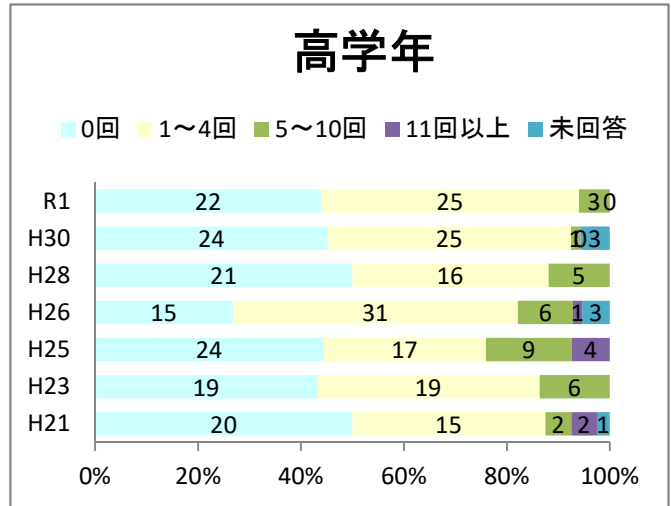
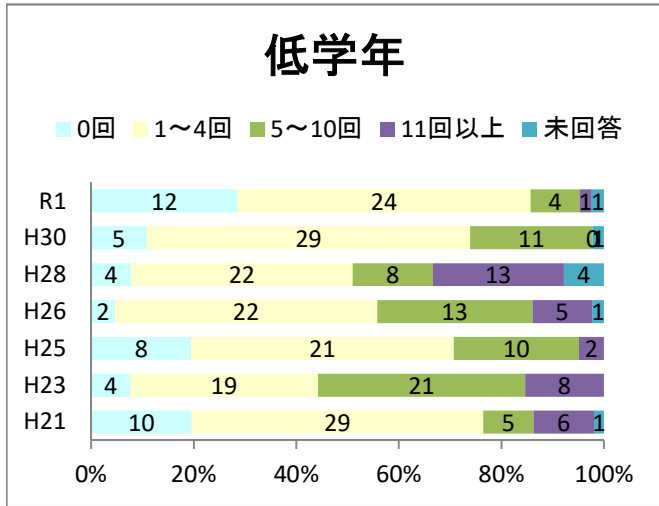
小学校低学年は、11回以上利用した割合が増加しました。高学年も、1回以上の割合が増加しています。中学生については、大きく変動はありませんが、5回以上行った割合は2割を下回りました。

行かない理由について上位は「読みたい本がない」「遊ぶ方が楽しい」「用事がない」でした。今後も学校図書室の充実や、本への関心を高める取り組みが必要となってきます。

14、学校の図書室に行かなかったのはなぜですか？（0回の人のみ回答 複数回答可）

読みたい本がない（11）、遊ぶ方が楽しい（11）、用事がない（11）、時間がない（9）、面倒くさい（8）、部活、少年団が忙しい（3）

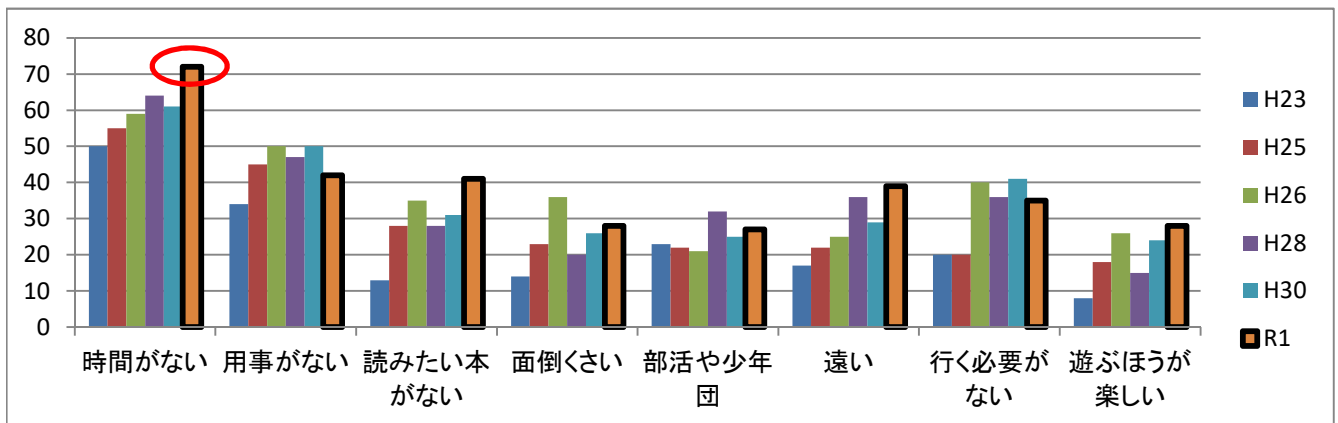
15、先月（令和元年10月）の一ヶ月で公民館の図書室に何回行きましたか？



16、公民館の図書室に行った目的は何ですか？（1回以上利用の方回答 複数回答可）

本を借りる等（57）、友達や親についていった（18）、くつろぐ（13）ほか

17、公民館図書室に行かなかったのはなぜですか？（0回の人のみ回答 複数回答可）

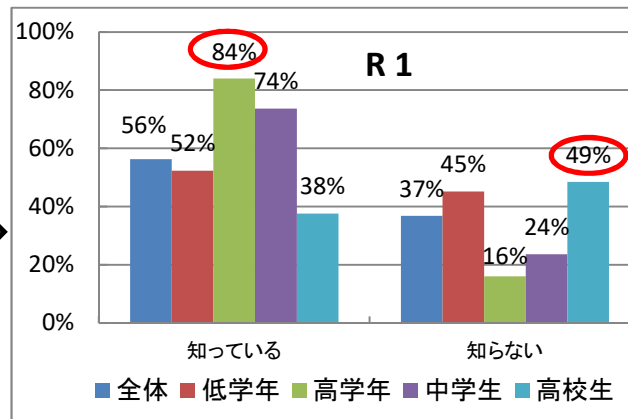
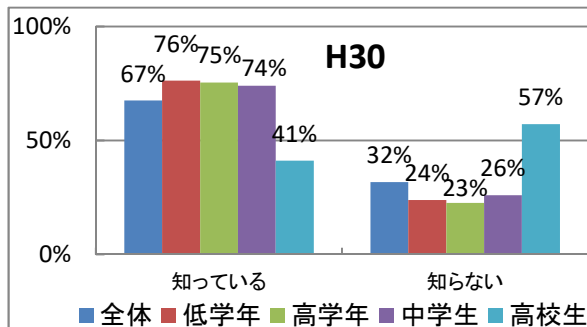


【コメント】

公民館図書室へは、小学生は行った割合が多いものの、中高生は8割近くが行っていない結果となりました。要因としては、「時間がない」が1番多く、次いで「用事がない」、「読みたい本がない」で、本を読むことの良さ・楽しさを伝えたり、利用しやすい図書室を目指す必要があります。

18、あなたは読書活動推進委員会の活動を知っていますか？

(H30とR1の比較で、未回答は表示なし)

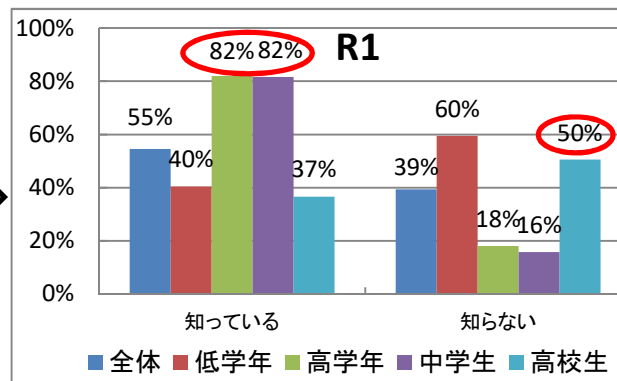
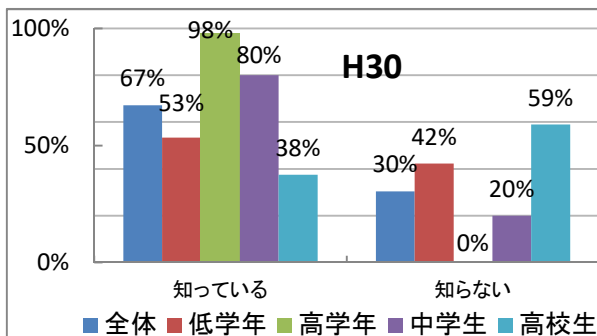


【コメント】

全体を通じて約半数が推進委員会の活動を知っています。高学年については、8割以上が「知っている」と回答していますが、高校生は半数近くが「知らない」と回答しています。

19、フリー図書棚があることを知っていますか？

(H30とR1の比較で、未回答は表示なし)



【コメント】

フリー図書棚については、全体の半数以上が「知っている」と回答しており、主に高学年及び中学生が知っている割合が多いです。高校生は半数が「知らない」と回答しています。

20、読書に関する意見等（自由記述）

◎こんな本が読みたい

- ・ 国語辞典を置いてほしい（小低）
- ・ 歴史の本をもっと置いてほしい（小低）
- ・ 猫ピッチャーを増やしてほしい（小低）
- ・ サバイバルのマンガを出して下さい（小低）
- ・ すみっこぐらしの本を置いてほしい（小高）
- ・ ホラー系の本を読みたい（中1）
- ・ もっと三国志の本がほしい（高1）
- ・ 自分の知っている芸能人の書いた本など、もっと種類が欲しい（高1）
- ・ マンガを増やしてほしい（高2、高3）
- ・ ライトノベルを増やしてほしい（高3）

◎こんな図書室に・・・

- ・ 本をもっと増やしてほしい（小低、小高、高3）
- ・ 図書室にみんながもうちょっと行きたくなる工夫をしてもらいたいです！（小高）

参考資料③ 第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画
策定委員及び策定協議の経過

1 第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員

氏名	備考	氏名	備考
◎ 高橋 貴憲	真狩中学校	寺井 春奈	図書室管理人
○ 山上 ゆかり	放課後児童クラブ	中西 裕子	おはなしポテト
浦 美加	おはなしポテト	原田 紗苗	おはなしポテト
大西 由美子	真狩小学校図書室ボランティア	藤澤 久美子	真狩小学校図書室ボランティア
小川 耕平	真狩高校	松枝 奈美	保育所
影山 敏彦	村PTA連合会	三好 妙子	すくすくぶっくの会
金本 真一	御保内小学校	佐藤 寛幸	事務局（教育委員会）
川口 明美	すくすくぶっくの会	佐藤 広大	事務局（教育委員会）
佐々木 剛	社会教育委員	長尾 亘季	事務局（教育委員会）
白岡 加奈	真狩小学校		

◎委員長 ○副委員長

2 第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定協議の経過

年月日	内容
平成31年 4月24日	第4期真狩村子どもたちの読書活動推進計画諮問
令和 元年 7月25日	第1回真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員会
令和 元年11月13日	第2回真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員会
令和 元年12月19日	第3回真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員会
令和 2年 1月29日	第4回真狩村子どもたちの読書活動推進計画策定委員会
令和2年2月4日～18日	パブリックコメント実施
令和 2年 2月21日	教育委員会に答申

